

## チャリティ活動ありがとうございます!

有限会社サンチャイルド・コーポレーション

CIESF の法人サポーターで、家電販売店や中古車販売店を展開している有限会社サンチャイルド・コーポレーション様(宮城県石巻市)が、チャリティ活動を通じて CIESF にご寄付くださいました。社員の方々が、地元で開催された川開き祭に屋台を出店し、その売り上げの一部が CIESF のカンボジア教育支援への寄付となるという活動です。鈴木高弘社長に当日の様子を伺ったところ、わたあめやポップコーン、飲み物など、社員の方々もイキイキと販売され、また地域の子どもたちも喜んで買い物をしてくれたとのこと。手作りの看板もとても温かみのあるものでした。



地域貢献にカンボジア教育支援も同時に行ってくださった今回のチャリティ活動は、地元で活躍する企業様ならではのものだと感じました。サンチャイルド・コーポレーションの皆様、ありがとうございました。

## 途上国への教育支援について講演いたします

CIESF が 2008 年の設立以来一貫して行ってきた“教育の中身の支援”は、数値で表すことが難しく、またすぐに結果が目に見えるものではない、地道な活動です。ひとりでも多くの方に途上国が必要としている教育支援や、CIESF の活動を知っていただけるよう、講演活動を行っています。話者は CIESF 創設メンバーで理事・事務局長の戸田陽子がつとめます。団体設立から、日本の事務局運営を行ってきた女性の視点で、カンボジアをはじめとした途上国にとって、今必要な教育支援についてお話いたします。少人数からイベントでの講演としてなど、ご相談に応じますので、ご興味のある方は CIESF 事務局までお気軽にお問合せください。



CIESF の支援活動は寄付で成り立っています。皆さまのあたたかいお気持ちをお待ちしております。

## CIESF サポーター募集

- 法人サポーター 1口10万円(寄付から1年間)
- スペシャルサポーター 1口5万円(寄付から1年間)
- 個人サポーター 1口1万円(寄付から1年間)

三菱東京 UFJ 銀行 青山支店(店番 608)普通預金  
口座番号 0021714  
口座名 公益財団法人 CIESF 理事長大久保秀夫

※ゆうちょ銀行、楽天銀行、クレジットカードでのご寄付については、CIESF ホームページをご覧ください。継続的なご寄付に便利な金融機関引き落としもはじめました。

**編集後記** 探検や冒険に関するノンフィクションをよく読みます。探検家や冒険家には、がっつり系の NGO 活動や執筆活動に従事する方がとても多いです。どちらも私の憧れの仕事です。叶えるにはまずは探検家になることからスタートした方が早道でしょうか。せめて心は探検家。(YM)

発行:公益財団法人 CIESF  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-7-5  
URD 渋谷第 2 ビル 4F



# CIESF NEWS LETTER

シーセフ ニュースレター 2015 September

# 第 33 号

公益財団法人 CIESF(シーセフ)は、非営利で国際的な民間の支援団体です。基礎教育の質の向上を主な目的とし、その上で高度人材育成も行い、カンボジアをはじめとした途上国の発展を支援します。

## 日本とカンボジアの交流



9 月 3 日に、サッカーワールドカップ予選日本対カンボジア戦が埼玉スタジアムで行われました。この対戦は 43 年ぶりとのこと。結果は 3-0 で日本の勝利でしたが、試合後 Twitter の投稿をきっかけとして各種メディアで賞賛されたのが、カンボジア選手たちの試合後の行動でした。日本ベンチの前に来て、全員合掌して日本にお礼の意を示していたことが「スポーツマンの鏡」などと、敬意とともに SNS に拡散されていったそうです。勝ち負けがすべてではないスポーツを通じたこのような交流に、カンボジアびいきを抜きにして、感動しました。

(事務局 増子)

## 東北の復興支援とカンボジアへの教育支援

夏休みの終わりに、岐阜工業高校の化学部の生徒さんたちが、CIESF 事務局にいらっやいました。「国境なき教師団」応援団のメンバーのひとりがこの部の顧問をされており、毎年「CIESF のカンボジアにおける教育支援活動」についての話を高校生への研修としてくださっています。今年で 3 回目となりました。同校化学部では毎年、有志が東日本大震災の被災地を訪ね、化学部の得意分野をいかした“光る消しゴム”作りを現地の小学生と行うなど、復興支援活動を行っています。



今回訪ねたという釜石市内の中学校の仮設校舎の理科教室の写真(左)とともに、興味深いお話を伺いました。被災地の中学校へは、理科授業への支援として、日本各地から実験道具などの物的支援が届きます。しかし、それは必ずしもその学校が必要だと思ったものとマッチしているわけではないそうです。この状況は、カンボジアの教員養成校の理科室への支援にとってもよく似ています。カンボジアへも、日本で不要になった理科実験道具などを贈る支援活動が多数ありますが、ただ物資だけ送られて来てもカンボジア人の教師は見たことも経験したこともない実験道具を使いこなすことができません。

結局、棚にしまって鍵をかけて使われていません。それでも日本の場合、要望にマッチしたものではなくても教師たちが工夫をして活用しているので、その差は大きいと言えるでしょうとのことでした。この話を聞いて感じたのが、やはり“教師のスキル”が大事であるということ。日本とカンボジアの教育の差は、教師のレベルの差であるのかもしれない。CIESF が行っているカンボジアの教師のレベルアップに向けた事業がカンボジアの教育支援に不可欠であることを被災地の理科室のお話から再確認できました。研修と銘打っていますが、このような機会に、こちらも毎回さまざまなことを学ばせていただいています。

## カンボジアの教科書事情 ⑧

「国境なき教師団」の元教育アドバイザーである笥八郎(かけひはちろう)先生がまとめた、「カンボジアの教科書事情」についてご紹介します。カンボジアでは無償なはずの教科書が児童や生徒に行き届いていないということのほか、内容にも問題があるようです。ニュースレター32号の続きです。



### 【算数の教科書の改訂】

カンボジアでは教科書の改訂が進んでいないわけではありません。小学校の教科書については以下のように少しずつ改訂されてきました。

2010 年秋 小学校 1～3 年まで新しくなる

2011 年 小学校 4、5 年が新しくなる

2012 年 小学校 6 年が新しくなる

2012 年 カラー印刷の教科書の登場(小学校2年のクメール語など)

改訂にともなった研修は結構行われている様子です。ただし、移行期間、移行措置はまったくなく、発行されたらすぐに新しい内容に変更します。また、改訂したらある部分は改悪になってしまったという話も聞きます。教育現場ではやはり混乱も見られるようです。

その一方で、教科書の改訂がまた近いうちにありそうだと漏らす教員養成校の先生もいました。今後の動向にも目が離せないようです。最後に指摘したように、今まで白黒だった教科書が少しずつカラー印刷されるようになってきました。クメール語(いわゆる国語)でしたが、理科はぜひすぐにもカラー印刷してもらえることを願っています。

(次号に続く)

## 特集 「国境なき教師団」スバイリエン州における教員養成支援 ②

CIESF では、2009 年より「国境なき教師団」としてカンボジアの教員養成校に理数科の教育アドバイザーを派遣しています。2015 年 8 月末時点で、延べ 22 名の教師を派遣してきました。これまでは、プノンペン市小学校教員養成校・中学校教員養成校、プレイベン州小学校教員養成校・中学校教員養成校の計 4 校へ教育アドバイザーを派遣していましたが、2014 年 10 月より 5 校目として、新たにスバイリエン州小学校教員養成校への派遣をスタートしました。スバイリエン州はベトナムに隣接した州で、日系企業なども多く進出している経済特区が州内にあります。

カンボジアが発展していくためには、重要な役割を果たすべき州でありながら、日系企業で働く人材は、十分な教育機会がないまま就職してしまい、人材の基礎学力や能力に大きな課題を抱えています。

スバイリエン州小学校教員養成校は、今までに教育の中身に関する支援をほとんど受けたことがありません。この学校の教官のレベルアップは、CIESF の活動にかかっているといっても過言ではありません。

支援スタートに際して、スバイリエン州教育局の局長からは、「人材育成や教育はカンボジアの発展にとって欠



かすことのできない分野であるが、残念ながら、なかなか成果をあげることができていない。CIESF のように教育の中身を支援してくれる団体をずっと待っていた。スバイリエン州教育局としても、できるかぎり CIESF のボランティアをサポートしていきたい。」という言葉いただきました。

## 教える、ではなく、まず人間関係を築くということ

スバイリエン州小学校教員養成校には、「国境なき教師団」の教育アドバイザーとして 2 名のボランティアがいます。算数担当の山田史子(やまだふみこ)先生(2014 年 10 月～2015 年 9 月)と、理科担当の齋藤悦子(さいとうえつこ)先生(2015 年 3 月～)です。山田先生は、支援スタートと同時に同行で活動を始め、スバイリエン州での「国境なき教師団」の基礎を築き、この 9 月に 1 年の任期を終えて帰国されました。齋藤先生は、2 人の教官をカウンターパート(CP)と、チームティーチング(※1)で理科の指導についてアドバイスをを行っています。前述の通り、同校は教育の中身に対しての支援を受けたことがなく、CP が齋藤先生に、積極的にアドバイスを求めている状況が、先生のレポートから読み取れました。カンボジア人教官の教育に対する熱意と向上心が伝わってきます。



スバイリエン州教育局長を表敬訪問(齋藤悦子先生)

「CP の先生が翌日教員研修にて授業をするというのでその準備を手伝った。後日の報告で他の先生たちからたくさん良いところを指摘されたこと、実験の時間を決めて実施するよう助言されたことなど私に報告してくれた。この先生とは一緒に教材について話し合ったり、事前準備・予備実験を一緒に行ったりしており、T1(※2)を交代して授業をすることで先生の教材理解を深めることができたことがよかった。」(齋藤先生のレポートより)

カンボジアの教師は、自分の授業のみ出勤してそれ以外は学校に滞在しない(職員室がない)というケースが普通です。しかし、齋藤先生の CP たちは、授業以外の時間を利用して、一緒に教材の準備や事前学習をするなどといった時間を過ごしています。CIESF の教育アドバイザーたちは、「教える」というスタンスではなく CP と「人間関係を築く」ということを徹底して重視してきたことが、このような成果を生んでいるのだと思います。

(※1) チームティーチングとは、教師 1=T1 と教師 2=T2 ふたりの教師がチームを組んで授業を行うやり方のことを指す(CIESF 独自の考え方で行っている部分もあり)/(※2) 教師 1=T1 が主体となって生徒に教え、教師 2=T2 は教材準備や生徒個別対応などの助手的な役割を担うのが一般的

## ご支援ありがとうございます (8 月)

CIESF の活動は、多くのサポーターの方々に支えられています。法人サポーターの皆さま(プラチナ・ゴールド・シルバー・ブロンズサポーター他)・個人サポーターの皆さま(スペシャル・個人サポーター・「国境なき教師団」応援団他)には、心より感謝申し上げます。8 月にご寄付を頂戴した方々を下記にご紹介させていただきます(8/1～8/31)。



### 【8 月】

■法人サポーター(プラチナ):株式会社クレディセゾン ■法人サポーター(ゴールド):株式会社日本防犯システム/有限会社プロテクト ■法人サポーター(シルバー):株式会社ピュアリー ■法人サポーター(ブロンズ):株式会社インフォラズ/有限会社オフィスイジマ ■支援企画寄付:スマイルキュー株式会社/リネットジャングル株式会社/ソフトバンクモバイル株式会社/株式会社愛媛企画/有限会社サンチャイルド・コーポレーション/株式会社リアルマックス/株式会社あなたの幸せが私の幸せ ■スペシャルサポーター:河野孝 ■「国境なき教師団」応援団:横森立子/笥元江/笥八郎/二瓶紀子/宮下芳和 ■個人サポーター:鳴海禎造 ■法人寄付:飛昇会/株式会社サラ

※以上敬称略